

(3) 費用対効果分析の要因変化

AA・A・B・C

費用対効果分析		計 画 時	再 評 価 時	増 減
	費用 (C)	百万円	17,044百万円	百万円
	効果 (B)	百万円	29,796百万円	百万円
	B / C		1.74	
変化内容	費用：事業採択時に費用対効果分析を行っていない。 効果：同上			
B/Cへの影響	同上			

(4) コスト縮減・代替案立案の可能性

コスト縮減の可能性	橋梁工事においては県債務負担行為、取付道路については交付金事業、地方特定事業等を活用し、集中的投資を行い、コスト縮減を図っている。
代替案の可能性	当事業区間は都市計画決定済みであり、代替計画案の可能性は無い。

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

住民ニーズ把握状況	早期完成供用に関しては地元住民からの要望が年々強まっている。
環境影響への配慮	工事に伴う残土量を最小限にし、沿線には植樹し、緑化に努める。
地域特性	

3 対応方針（事業実施主体案）

総合評価	継続 見直し継続 中止
評価理由	総事業費が大きいため、事業期間が長いですが、集中投資を行うことにより、早期の効果発現が期待できることから整備を継続することが必要である。
備考	

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針（案）どおり 対応方針（案）を修正すべき
委員会評価	継続 見直し継続 中止
評価理由	
附帯意見	